

自治体における Webアクセシビリティ向上の方策

JIS規格の確認とWebアクセシビリティ・チェッカー

「Webコンテンツをアクセシブルにするべし」

このような通達や規格があることは何となく知っている。

しかし、実際には詳細は分からず、何をどこから手を付ければよいのかと日々模索している担当者が多いのも事実であろう。

そこで今回からは、現状のWebをアクセシブルに改善するためのさまざまな方策を検証していこう。

関根千佳 = 文

ユーディット 代表取締役
情報のユニバーサルデザイン研究所



JIS規格の入手方法

まずは、平成16年6月20日に公示されたJIS規格を入手して中身を読んでみよう。このJIS規格は次の方法で購入できるが、内容の確認だけなら閲覧することも可能だ(ただし、保存、プリント不可の制限あり)。

① 購入する

(財)日本規格協会(JSA)のWebサイトにある「JSA Web Store (<http://www.webstore.jsa.or.jp/webstore/top/index.jsp>)」で表示されるJIS検索から規格番号に「X8341-3」と入力。すると、「高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第三部：ウェブコンテンツ」と表示され、56ページからなるPDF文書をダウンロード購入できる。冊子での購入も可能で、どちらも価格は3,045円(税込)である。PDFファイルは1.7MB程度なので、ブロードバンドを利用していけば2分以内に入手できるはずだ。

② 閲覧する

日本工業標準調査会(JISC)のWebサイト(<http://www.jisc.go.jp/>)のJIS検索から同様に「X8341-3」と入力すると、今度はカラーとモノクロのPDFが閲覧できるようになる。Webアクセシビリティに関する規格は色の使い方も言及しており、カラー版の活用をお勧めする。

JIS規格を活用するにあたっては、上記の「X8341-3 第3部：ウェブコンテンツ」だけでなく、Webアクセシビリティに関する大枠を規定した「X8341-1 第1部：共通指針」も同時にチェックしてほしい。どのような配慮が求められた結果として規格の制定につながっていったのかなど、Webアクセシビリティの必要性が背景とともに説明されており、今後、実際にWebをアクセシブルなものにしていく過程で必ず役立つであろう。

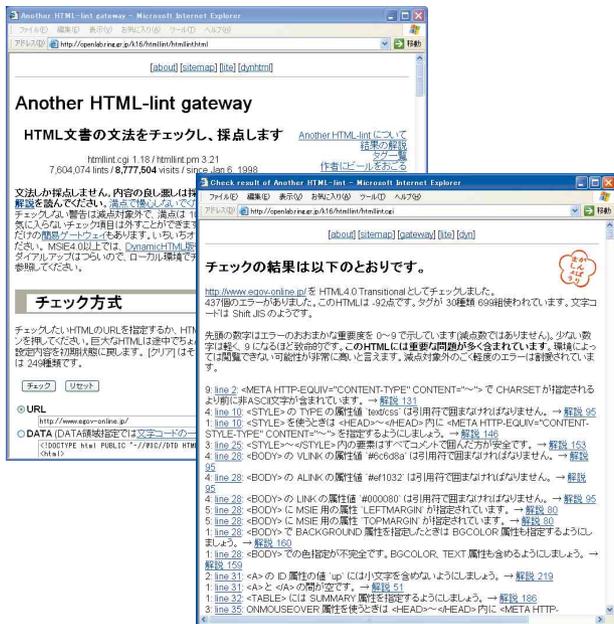
Webアクセシビリティの基本となる同規格だが、筆者としては、すべての職員がこの規格を閲覧できるよう、団体ごとにまとめて購入したり、庁内のイントラネットで自由

に閲覧したりできる環境づくりが必要ではないかと思う。今では自治体のWebサイトも、各部署が個々に情報を更新するケースが多くなっており、Web全体を構築する担当者だけでなく、庁内の一人一人が共通してアクセシブルなサイトづくりを目指す認識が必要だと考えるからだ。

現状をツールで確認

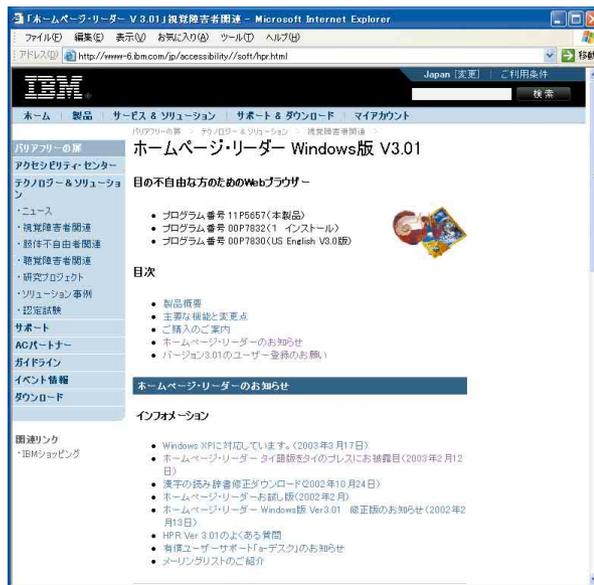
さて、JIS規格で要求されていることの概要が分かてきたら、次は自サイトの状況把握である。最近では数多くのWebに関するチェッカー・ツールが登場している。最初から完璧はありえない。まずは怖いもの見たさで自サイトをツールを使って採点してみよう。

筆者がお勧めするツールは、「Another HTML-lint gateway」である(下図)。これはオンライン対応のHTMLチェッカーであり、試用することができる。だが、本来は



Another HTML-lint gateway
(<http://openlab.ring.gr.jp/k16/htmlint/htmlint.html>)

編集部注：本誌サイト・e-Gov Onlineを診断すると「-92点・がんばりましょう」であった



ホームページ・リーダー
(<http://www-6.ibm.com/jp/accessibility/soft/hpr.html>)

シェアウェアなので、業務として使用する場合には作者に料金(1,155円)を支払う必要がある。

これで診断してみると、面白いように的確な点数が付く。試しに経済産業省の公式サイト(トップページ)を診断するとマイナス152点(執筆時点)で「がんばりましょう」、総務省は「ふつうです」で73点(同上)であった。診断結果を見ながら、「よくできました」を目指して少しずつ改善することをお勧めする。

次は音声ブラウザでチェックしてみよう。視覚障害者がよく利用する音声読み上げソフトウェアとしては「PC-Talker(高知システム開発)」や「ホームページ・リーダー(日本IBM)」といった製品があるが、このうち、ホームページ・リーダーは30日間の試用が可能である(上図)。さっそくダウンロードして自サイトの情報を音声にして聞いてみよう。果たして、制作した意図のとおり文字が読み上げられるだろうか。最初はまるっきり意味不明な音声を読み上げられるかもしれない。Titleもきちんと付けておらず、リンクのALT属性の記述がなければリンク先へは行けない。また、Frameを多用し、しかもFrame間の相互関係を記述しなければサイトの構成を理解できない。でも、その音声は、視覚障害者があなたのWebサイトから得ている「情報」なのである。

e-Gov